

豊中の未来を描こう！！

発行2016年11月

VOL. 121

朝晩の
冷え込みに
ご注意を！！

豊中市議会議員
無所属

かんばらこういちろう 神原宏一郎の つながり通信

～生活・社会そして人・・・すべては政治とつながっている～



関心・期待感・信頼感を抱く政治へ

◆ 2015年度決算審査！！～文教常任委員会にて～ ◆

授業日数の拡大に伴い、給食も実施を！！

部活動は顧問の熱意任せでいいのか！？

Q. 夏季休業日を短縮し、授業日数を拡充しているが、なぜ、8月中の学校給食は実施しないのか？

A. 子どもたちに過度な負担とならないよう十分に配慮し、また、教職員による教育課程編成やその準備、教職員研修等の充実に資するための時間を確保するため、8月中の給食の実施は、現時点では予定していない。

(要望)近隣では、吹田市、茨木市、箕面市、高槻市、摂津市で8月中から給食を開始している。保護者からの要望も多数あり、近隣市の状況も参考にしながら、早急に8月中の給食実施を実現して欲しい！！

Q. 近畿大会や全国大会の常連になっている学校のクラブがある一方、市内の大会ですら出場を見送る学校のクラブがある。クラブそのもののレベルや顧問の指導力、顧問の熱意に大きな差が生じているのではないかと？

A. 大きな大会へ参加することや成果を残すことは、生徒の活動に対する動機付けの一つの要素になるが、本来部活動は、自主的・自発的な参加を通じ、生徒に責任感や仲間との連帯感、達成感を育むことが大切と考えている。

Q. クラブの顧問を担うことで、精神的にも肉体的にも追い詰められている教職員が少なからずいるのではないかと？

A. 部活動の指導は、顧問の熱意によって支えられている部分が非常に大きいという現状があり、休日の指導等が負担になっているケースもある。

Q. 予算を確保し、クラブの顧問を民間委託し、教職員を本業に注力させることはできないか？

A. 現時点で、クラブ顧問の民間委託は検討していないが、他の実施自治体の事例や動向を注視していく。

(要望)熱意ある顧問の頑張りには敬意を評すが、本分の教育課程に支障をきたす教職員が出てくる前に、顧問の民間委託化を含め抜本的な解決策を検討して欲しい！！

テストも必要だが、授業時間の確保を！！

Q. 今年度から、大阪府独自のチャレンジテストが3年生にも導入され、1学期早々、全国学力学習状況調査、チャレンジテスト、各学校の定期テストや実力テストとテストの連続で、テスト結果を授業で活かしたり、テストの振り返りをする時間が取れない状況にあるのではないかと？

A. 調査やテストの目的の達成が、生徒の学力や学習意欲の向上や、指導方法の工夫改善につながると考えており、そのためにも、生徒への過度な負担にならないよう配慮する必要があると認識している。

(意見)テストの必要性は理解するが、テスト結果を授業に活かしたり、復習する時間がないと、テスト本来の目的が果たせない。授業時間をしっかりと確保すべき！！

教職員の勤務実態は異常！？

Q. 教職員の平均勤務時間は？

A. 8時30分～17時の所定内勤務時間に加えて、1日平均、小学校教職員で約2時間、中学校教職員で約2時間30分、時間外勤務を行っている。健康障害リスクが高まるとされている、月45時間以上の時間外勤務は、小学校の教職員では約50%、中学校の教職員では約70%が該当している。

(意見)これまで、出退勤の管理を紙ベースでしていたが、早急に出退勤システムを活用し、教職員の長時間勤務の実態把握、原因究明、問題解決に取り組むべき！！
教育委員会として、教職員のワークライフバランスに配慮した対策を講じるべき！！

不登校対策にフリースクールの活用を！！

Q. 不登校児童・生徒への支援が不十分な中、民間施設との連携や、市としてフリースクールの整備をすべきではないかと？

A. フリースクール等の民間施設については、文科省が調査研究をしており、その成果や課題の情報収集に努めていく。

(要望)民間施設との連携や公設フリースクールの整備を、前向きに検討して欲しい！！

病児保育室をもっと整備して欲しい！！

Q.現在の病児・病後児保育の受け入れ体制は？

病児・病後児保育は全て市の中部地域で実施しているが、中部地域以外の方々のニーズは？

A.病後児保育室が1か所で4名、病児保育室が2か所で、それぞれ20名と6名。利用実績は、市北部の利用が6割超、中部が約3割。来年4月に新千里西町に病児保育室(定員6名)が開所予定。

(意見)今後は南部地域でのニーズを検証し、病児保育室の設置を検討すべき！！一方、病児保育が病後児保育の受け皿になることから、市直営の病後児保育室の存廃を含めたあり方を検討すべき！！

公立こども園(保育所・幼稚園)の適正数は??

Q.平成30年4月の待機児童解消を目指し、現在、約1400人分の保育施設等の整備をしているが、幼稚園と保育所のニーズの推移と今後の見込みは？

A.人口は平成28年度をピークに減少するとして計画し、幼稚園のニーズは、ここ数年、ほぼ変化がなく、今後は、人口減少とともに減少を見込んでいる。保育ニーズは増加傾向で、今後は、平成30年度をピークに推移すると見込んでいる。

Q.今後、子どもの数が減少することが予想される中、保育ニーズは高まる一方、幼稚園ニーズは減少することが見込まれている。全ての公立の幼稚園・保育所は、平成27年4月に公立こども園(全26園)に移行したが、今後、供給が需要を上回ることも考えられるが、その対策は考えているのか？

A.今後の人口減少期を見据えた対策として、公立こども園の適正配置を計画的に取り組むため、基本方針を策定した。今後はこの基本方針に基づき、具体策を検討していく。

(意見)待機児童の解消を目的に保育施設等の整備を進めているが、同時に、今後の人口減少や公立こども園のニーズの減少を見据えた既存施設の計画的かつ効率的な整備や配置も早期に検討しておくべき！！

一時保育事業の拡充と男性の育児参加の推進を！！

Q.現在の一時保育の受け入れ体制は？

A.一時保育は満1歳から就学前の子どもを1か月に12日を上限に保育する事業で、公立こども園では、保護者の疾病、災害、事故など社会的にやむを得ない理由で預かる『緊急一時保育』をしている。民間保育所等では、緊急一時保育と週1日～3日程度の保護者の就労やリフレッシュなどを理由で預かる『断続的一時保育』をしている。

Q.保護者のニーズに十分、対応できているのか？

A.待機児童保護者やリフレッシュを理由とする一時保育の利用希望者は増加傾向にあり、なかなか利用が出来ない方がおられる。

(意見)リフレッシュを理由とする一時保育ニーズに、公立こども園での緊急一時保育では対応できない。また、公立こども園のうち、もともと幼稚園だったところは、一時保育のニーズが高い1歳児や2歳児の受け入れはできない。これらも考慮して、予算措置や人的配置を含めて公立こども園でも、リフレッシュを理由とする一時保育に対応する術がないか検討するべき！！

一方で、行政が支援策を講じれば講じるだけ、助かる母親は増えるかも知れないが、子どもの親は母親だけではなく、父親がもう少し、子どもを看れたら、一時保育を利用しなくて済むケースは増えるように思う。ワークライフバランスの推進、特に、父親の子育てへの参加意識や理解を高めなければ、結局、母親と行政が負担し続けることになるのではないかと。

※詳細は、ホームページ・議会報告をご覧ください。

http://www.geocities.jp/positive_square/

※公式記録については、市議会会議録検索まで。

<http://toyonaka.gijiroku.com/gikai/>

※ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

young_spirit.jp@yahoo.co.jp



他にもこんな質問や提案をしました・・・

- ・放課後こどもクラブについて～延長保育や土曜保育の低調な利用実態を指摘～
- ・子どもの遊び場について～日曜日や祝日、雨の日の遊び場の整備を要望～
- ・図書館の魅力向上について～レンタルランキングの掲示を提案～
- ・兄弟都市沖縄市について～平和教育での活用と沖縄市の教育委員会や小中学校との連携強化や交流の推進を提案～



発行元 前向きひろば ～Positive Square～

〒560-0021 豊中市本町 3-1-20 エルビル 2 階

TEL & FAX: 06-6854-5664

平日(土・祝日は除く)の 10時から 17時はスタッフがおります。

young_spirit.jp@yahoo.co.jp

http://www.geocities.jp/positive_square/

Facebook 活用しています！！

「つながり日記」毎日 HP で更新中！！

※ご希望の方には通信を無料でお届けします。お気軽にご連絡ください。



前向きひろば 神原宏一郎 事務所

